

## 九州大学法科大学院創立 10 周年記念同窓会の開催（報告）

2014 年 4 月の開校 10 周年を迎え、九州大学法科大学院創立 10 周年記念同窓会が、7 月 26 日（土）アークホテルロイヤル福岡天神 孔雀の間を会場として盛大に開催されました。この間の修了者と教鞭をとってきた専任・兼担・兼任の教員、約 200 名が、福岡市でも 35 度を超す酷暑にかかわらず参集し、皆久しぶりの再会を喜びました。



受 付



司会者



開会前の風景

予定より若干遅れ、18 時 10 分頃、司会の石井忠裕弁護士（4 期既修・福岡城南法律事務所）、西野裕紀弁護士（7 期既修・福岡城南法律事務所）により開会が告知され、まず、冒頭、九州大学法科大学院同窓会の山西信裕会長（1 期既修・弁護士・羽田野総合法律事務所）が、今回の記念同窓会を機に、修了者間の「横のつながりだけでなく、縦のつながりも是非強めてほしい」と挨拶されました。

続いて、九州大学法科大学院の田淵浩二院長が祝辞を述べ、「いま全国の法科大学院は厳しい状況にあるが、九州大学法科大学院は、さらに六本松へキャンパスを移転させ、個性と特色のある教育を目指すので、同窓生の皆様もぜひ支援してほしい」と呼びかけました。



開会挨拶をする山西同窓会長



祝辞を述べる田淵法科大学院長



上田弁護士による乾杯の挨拶

こうして乾杯となりましたが、上田國廣弁護士（九州リーガル・クリニック法律事務所・2012 年 3 月まで実務家専任教員・刑事弁護論）が乾杯の挨拶の中で、「学修室の大部屋の絆を繋ぎながら今後も交流し、九州大学法科大学院を大きく育ててほしい」と述べられました。



歓談中の参集者



歓談中の参集者

暫くの歓談の後、九州大学法科大学院に特に縁の深い3名の先生からの祝辞を頂戴しました。まず、大出良和東京経済大学現代法学部教授（2008年3月まで九州大学法科大学院教授・創設時の法科大学院長）が、「担当授業のクラスには約100名の受講者がいたが、双方向授業を理想的に行うため、全員の顔と名前を覚えた」など苦勞談を交え、九州大学法科大学院の理念につき熱っぽく話されました。

また、九州大学法科大学院において派遣裁判官、派遣検察官として実務教育に携わってこられた、家原尚秀東京地方裁判所・簡易裁判所判事、太田玲子広島高検総務部長・検事から、それぞれ教員時代の思い出などが語られました。



大出初代法科大学院長



家原判事



太田検事

さらに、引き続き、今回の記念同窓会の「目玉」の企画である、修了生による「リレートーク」が行われました。これは、さまざまな職業で特色のある活動をしている九州大学法科大学院の修了者3名が登壇し、現在の仕事、法科大学院の思い出、法科大学院で学んだことで役に立ったこと（逆に役に立たなかったことを）、それぞれ自由に語り、次の論者に繋いでいくというものです。まず、中本恵太郎氏（1期未修・歯科医師）からは、1期入学者には個性溢れる人が沢山いたことが、尾畠弘典氏（4期既修・弁護士・古賀市役所）は、自治体内のいわゆる組織内弁護士として新しい領域での仕事の魅力が、それぞれ述べられました。さらに、松前あかね氏（5期未修・佐賀大学産学・地域連携機構講師）からは、社会人であり他学部出身者であり0歳児の母親であり他県から通学する学生であった自身の学生生活について、また、教員のみならず、法科大学院事務室へも謝辞が語られました。



リレートークの様子



リレートークの様子



来る9月18日(木) 司法試験合格者祝賀会へ参集のお願い

その後、再び歓談に移りましたが、20時少し前頃、九州大学法科大学院支援会の八木大和会長（5期既修・弁護士・福岡第一法律事務所）から、2014年9月18日（木）に2014年度司法試験合格者祝賀会が開催される旨が告知されました。

そして、中山弘幸公証人（福岡公証役場・2004年から兼任教員として要件事実論を担当）の挨拶による閉会となりました。「10周年はひとつ、ふたつ・・・の『つ』がとれる節目で、これから九州大学法科大学院は壮年への道を歩み出す」という印象的なメッセージと共に、「一人ひとりが手を携えて、共に未来を切り拓きましょう」と中山公証人自らによる掛け声のもと、参集者全員による「博多一本締め」により一同名残り惜しい中、閉会しました。



中山公証人による掛け声



全員による博多一本締め

上記のように、演壇に立たれた多くの方々からは、異口同音に、九州大学法科大学院の修了者と教員の今後に向けた結束の重要性について述べられ、それに応えるかのように、参加者は、歓談を通じ交流をよりいっそう深めました。そして、次回15周年記念同窓会での再会を約束しつつ、盛会のうちに散会しました。

この記念同窓会における修了者の結集は、今後も引き続き九州大学法科大学院とその発展を支える大きな力となるに違いありません。

（文責 赤松秀岳）